

小児脳腫瘍研究進歩のための チャリティーコンサートご支援のお願い

日本脳神経外科学会の会員とその家族より構成されるオーケストラ Musica Neurochirurgiana は本年創立 30 周年を迎え 記念行事のひとつとして「小児脳腫瘍研究支援チャリティーコンサート」を開催いたします。この趣旨のチャリティーコンサートは、平成 26 年にも開催し 多くのお客様からご好評を得ました。

小児がんは我が国では年間 2500～3000 件発生すると推定されています。白血病（40%）が最も多く、脳腫瘍（20%）は第 2 位を占めます。白血病の治療成績は大きく向上し、80%以上で長期生存が期待できるようになってきましたが、小児悪性脳腫瘍は全世界の専門医の長年の努力にもかかわらず、小児がんの中で最も死亡率が高い難治性がんです。

治療困難な小児悪性脳腫瘍は発生数が少ないため、有効な治療法開発には我が国はもとより全世界の研究者が協力し、研究成果を共有し、効率よく有効な治療法へ結びつけなければなりません。

この 10 年間で国際研究協力体制が大きく発展し、各国が各々の特徴を生かしつつ国際的な研究協力体制を構築し、一丸となって小児脳腫瘍の治療向上を目指す時代となりました。

我が国でも治療成績向上のために、腫瘍細胞の生物学的研究（遺伝子分析）、有効な治療方法確立のための臨床研究、国際的に最先端の治療・研究情報を全国の治療医に普及するための教育講演会の開催、国内およびアジアでの小児脳腫瘍に関わる学会・研究会の支援などが活発に行われています。

これらに必要な経費は、文部科学省と厚生労働省からの公的研究費に加え、多くの民間支援団体からの研究費でまかなっておりますが、まだまだ不足しております。

皆様におかれましては小児脳腫瘍研究の意義をご理解いただき、研究を支援するためのチャリティーコンサートにご来場下さいますようお願い申し上げます。

コンサート収益は、小児脳腫瘍研究を支援して下さっている 認定 NPO 法人ゴールドリボン・ネットワークに寄付いたします。前回のチャリティーコンサートの際に頂いた皆様のご厚志も同法人に寄付いたしました。これらを含みこれまで同法人からの支援により行った事業は

「胚細胞腫の治療成績向上のための臨床研究（平成 21 年より継続）」

「日本脳腫瘍学会での小児脳腫瘍に関する教育講演会の支援（平成 26 年より継続）」

「アジア胚細胞腫治療研究会設立への支援（平成 27 年）」

「欧米からの著名な治療医・研究者 5～8 名を招聘しての教育講演会（平成 27 年および 28 年）」
などが挙げられます。

ご寄付下さいました方々へ心からの感謝を申し上げ さらなるご支援をお願いする次第です。

平成 30 年 7 月 吉日

Musica Neurochirurgiana 事務局長
小児脳腫瘍研究支援委員会 代表



松谷雅生

（五反田リハビリテーション病院院長、埼玉医科大学名誉教授）